

私はかつて、 今のあなたのようにでした。 将来あなたは、 今の私のようになるのです。

詩篇 90

- 1.主よ。あなたは代々にわたって私たちの住まいです。
- 2.山々が生まれる前から、あなたが地と世界とを生み出す前から、まことに、とこしえからとこしえまであなたは神です。
- 3.あなたは人をちりに帰らせて言われます。「人の子らよ、帰れ。」
- 4.まことに、あなたの目には、千年も、きのうのように過ぎ去り、夜回りのひとときのようなのです。
- 5.あなたが人を押し流すと、彼らは、眠りにおちます。朝、彼らは移ろう草のようです。
- 6.朝は、花を咲かせているが、また移ろい、夕べには、しおれて枯れます。
- 7.まことに、私たちはあなたの御怒りによって消えうせ、あなたの激しい憤りにおじ感えます。
- 8.あなたは私たちの不義を御前に、私たちの秘めごとを御顔の光の中に置かれます。
- 9.まことに、私たちのすべての日はあなたの激しい怒りの中に沈み行き、私たちは自分の齢をひと息のように終わらせます。
- 10.私たちの齢は七十年。健やかであっても八十年。しかも、その誇りとするところは労苦とわざわいです。それは早く過ぎ去り、私たちが飛び去るのです。
- 11.だれが御怒りの力を知っているでしょう。だれがあなたの激しい怒りを知っているでしょう。その恐れにふさわしく。
- 12.それゆえ、私たちに自分の日を正しく数えることを教えてください。そうして私たちに知恵の心を得させてください。
- 13.帰って来ててください。主よ。いつまでこのようなのですか。あなたのしもべらを、あわれんでください。

14.どうか、朝には、あなたの恵みで私たちを満ち足らせ、私たちのすべての日に、喜び歌い、楽しむようにしてください。

15.あなたが私たちを悩まされた日々と、私たちがわざわいに会った年々に応じて、私たちを楽しませてください。

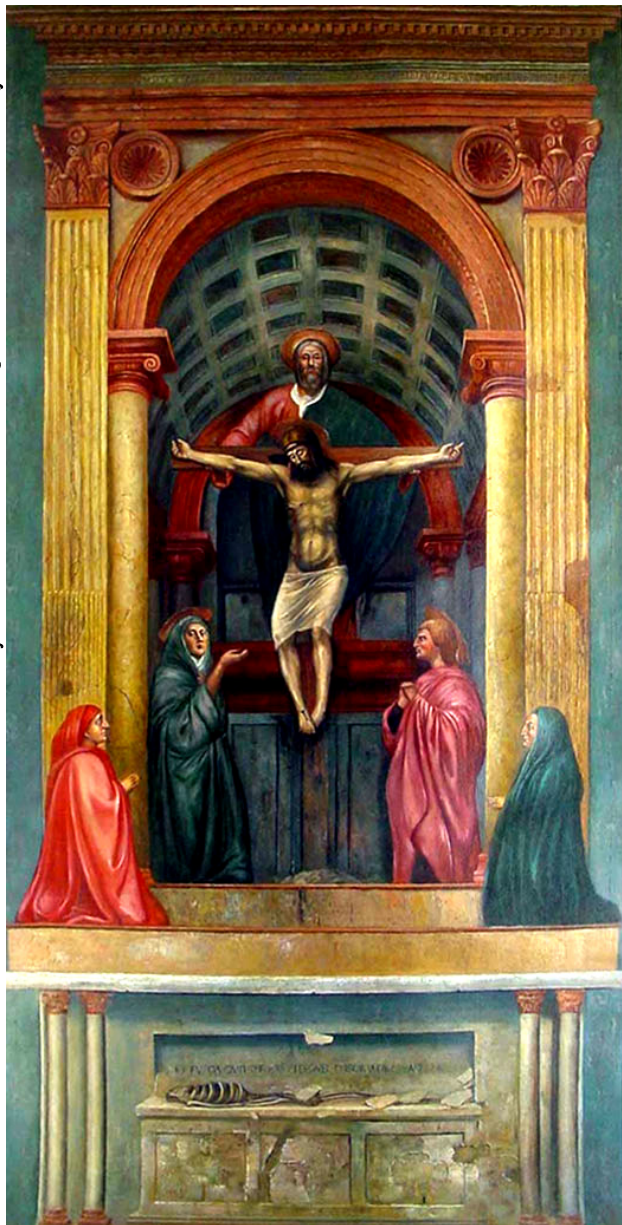
16.あなたのみわざをあなたのしもべらに、あなたの威光を彼らの子らに見せてください。

17.私たちの神、主のご慈愛が私たちの上にありますように。そして、私たちの手のわざを確かなものにしてください。どうか、私たちの手のわざを確かなものにしてください。

序論:

イタリア初期ルネッサンスのフィレンツェ派の画家によって描かれたもっとも有名な作品の中に、マサッチョという画家によって描かれたフレスコ画があります。

その絵画は、フローレンスという町のドミニコ会によって創設されたサンタ・マリア・ノベラという教会にあります。その絵の題名はホーリートリニテイ:聖なる三位一体の神と命名されています。この画家によって三位一体の神が、この絵に描写されていますが、その下には墓があります。墓は石棺で、その上には骸骨があります。その骸骨の上の壁の部分に、ラテン語で、



“IO FU[I] G[I]A QUEL CHE VOI S[I]ETE E QUEL CH['] I[O] SONO VO[I] A[N]C[OR] SARETE” と彫られています。(これは、和訳すると、私はかつて、今のあなたのように生きたものでした。しかし、将来あなたは、今の私のように、骸骨となり死んだものとなるのです という意味になります。)

骸骨のイメージと、このラテン語で壁に刻まれた言葉は、人々に、人生は本当に短いもので、死は避けられない事実であるということを考えさせます。メッセージは明確です。絵画は、観る人にテーマを投げかけます。すべての人に死は訪れます。この画家は、この絵を観るすべての人に、死は免れないという人間の運命と将来の方向性を、深く考えてもらいたかったのではないのでしょうか。

日本に住んで今まで、火葬を幾度か見たことがあります。ですから、このようなイメージは私



たちにより大きなインパクトを与えます—なぜなら、それは、もはや一片の絵画の中だけではなく、目の前で起こる現実なのですから。自分の愛した人の骨が、火葬後、鉄パンの上で冷めていく…まさか、そんな時に、その時間にいつも見ているテレビ番組を見逃したことを考える人はいないでしょう。

詩篇90は、人が生きていくための、人間から神への力強い、心からの祈りなのです。詩篇90は、私たちの人生で、もっとも大切なことを深く考えるように招いているのです。生きることはかけがえないことです。そして人生は短いのです。死は免れず、必ず訪れます。死んだら私はどこへいくのでしょうか？私たちの絶対的な運命を真剣に考えることは、私たちが今現在を、どのように生きるべきか

ということに影響を与えます。

私は一体何を しているのでしょうか？

人生は短いのです。詩篇の作者は、人生は短いということを表すために、雑草のイメージを使いま

した。イスラエルの雑草は長くは持ちません。一日のスパンで、雑草は新しく生え、夕方には枯れるか、しおれてしまいます(聖句5節と6節)。私たちの人生をそんな短いものと比べられて、はたして私たちは自分たちの時間を、本当に正しいことをして過ごしているの

しょうか？ある人たちは、自分たちが正しいと思ったことを達成し

ようと、一生懸命努力して生きます。彼らは“成功へのはしご”と信じたものを登りつめます。しか



し頂上まで来てみると、彼らが登りつめたはしごは、間違った壁に掛かったものであったということに気が付きます。人生の終わりに来て、彼らは、時間を無駄に過ごしてしまったことを悟るので、私たちの究極的な終着点について注意深く考えることは、人生の現時点において、決めなければならない沢山の選択や、決断の手助けとなるでしょう。

私はどこへいくの でしょう？

私たちの人生が短くはかないものだからこそ、私たちは、人生の最後の結末と、死後私たちはどうなるのかということ、考えるようにお勧めします。

8節では「あなたは私たちの不義を御前に、私たちの秘めごとを御顔の光の中に置かれます。」と言っています。神は、私たちがする間違い、たとえそれが隠されていたとしても御存知なのです。「主は、闇の中に隠れた事も明る

みに出し、心の中のはかりごとを明らかにされます」(1コリント4:5)。そして、裁きが来て、すべての罪が罰せられるのです。(各々の)人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている(ヘブル9:27)。聖書は、はっきりと天国と地獄があることを語っています。

イエスは、地上での働きの間、人々に、神に気に入られようとして、自分の力で良くなろうとする努力に頼ってはいけなと、愛をもって警告しました。イエスは私たちが自分の功績を信じる時、自分自身をだまし、地獄に向かっているのだと説明しました。(ルカ18:9-14、マタイ23:15)

この詩篇と他の神様のみことばの数々は、人生の最後のことについて、私たちが注意深く考えを巡らすようにと促します。最後のことがら、それは、死、さばき、地獄、そして天国といった類のことです。これらのことを最初に考えることで、今、私たちが人生において、何をすべきで、どこへ行きたいのか、そして何が一番大切なことなのかといったことについて、明らかにしてくれます。私たちが人生の方向を変えるのに、遅すぎることはないのです。私たちが生きている限り、時期は遅くはありません。

一番大切なことは何？

12節で、この詩篇の作者は“それゆえ、私たちに自分の日を正しく数えることを教えてください。そうして私たちに知恵の心を得させてください”と書いています。ここでいう‘自分の日を正しく数えること’の目的は、ただ単に日数を数えて、それが何日あるかを算術的に見極めるためではありません。

このメッセージのためのリサーチをしている間、実際に人の死の予測日を計算するための、インターネットサイトがあることを知って、ショックを受けました。そのサイトの宣伝文句として、次のように書いてありました：砂時計のように、一秒ごとに人生は短くなっています、そのため、インターネットを使ったフレンドリーなお知らせをします。このサイトは人生がいかに短いかを、あなたに思いおこさせる



ものです。特定の個人情報を入力したあと、このインターネットサイトはあなたがいつ死ぬであろうという、予測日を割り出します。私たちの人生の日数を数えることが、今や忌まわしいことではなく、コンピューターを使って算出することができるのです！

齢の日を数えるということは、生きているうちに何が一番大切なことであるのか？という質問に私たちを導きます。それは、ただ単に私たちが今何をしているのかというのを再確認することではなく、それ以上のことなのです。それは、私たちの心を変えることなのです。それは、私たちの人生の教師である神との関係におい

て、知恵の心を得るという事なのです。この詩篇90は、私たちに神を指し示しています。誰が私たちの先生であるのかによって、人生のすべてのことが違ってきます。もし、あなたが、自分自身を人生の先生だとするのなら、自分にとって大切なことだけをするで

しょう。あなたの心は、人生は短いから、できるすべての楽しみを自分のために経験しなさいと言うでしょう。あるいは、あなたの心は、自分で出来る限りの財産を蓄えなさいというでしょう。しかし、神様の心には、いったい何とあるのでしょうか？知恵の心を得るとはどういう意味なのでしょうか？

知恵の心を得るということは、私たちの先生である、神様の愛に満ちあふれた権威のもとに、私たちが自ら服従するということなのです。この神様が、私たちを創造し、私たちに人生を下さったのですから。私たちは、この神様からいただいた人生を大切にし、祝うべきです！

神が私たちの人生における師でないかぎり、私たちは、自分の中にある罪を認めることができず、神が聖なる正しい方であることも分かりません。またやがてやってくる裁きについても分からないでしょう。そして、私たちは、将来の運命についても、熱心に考えないでしょう。神が私たちの先生で

なくても、自分の人生の齢を数えるかもしれませんが、それが短いと思うかもしれません。しかし、神が私たちの先生でないかぎり、知恵の心を得ることは決してありません。

神がこれらのことばを書き留めるように語りかけた、この詩篇の作者はモーセでした。モーセには、神を、自分の人生の先生とした経験が豊かにありました。この詩篇で、モーセは、生きること、死、人間の罪、そして神の怒りと恩恵について、(見せかけで語ろうとしないで) 正直に語っています。

モーセは、神のご慈愛と憤りについて、個人的に理解していました。聖書は神様がモーセと顔と顔を会わせて話された、しかも友達のように語り合ったと言っています。(出エジプト記33:11。) **それは、神のご慈愛の体験といえるでしょう!**モーセは神のこんなにもすばらしいご慈愛に預かることができました。なぜなら彼は約束された贖い主である神を、とても固く信じていたからです。それは彼の行いによるものではありませんでした。

同時に、モーセは約束の地には入ることを許されませんでした。なぜなら神に対しての不従順があったからです(申命記4:25と26) **それは、神の憤りの体験といえるでしょう!**最終的には、神の義なる憤りは、約束された人類の贖い主の上にすべて注ぎこまれることになるのです。

モーセは、生と死とを彼の人生の中で経験しました。彼は、過ぎ越しの祭りを通して、紅海を渡った時のことを通して、多くの人の命が神によって救われる奇跡を目の当たりにしました。(ある解説書によると)モーセがイスラエルの民のリーダーとして、40年間砂漠をさまよっている間、少なくとも、一万五千件以上の葬式があったと言っています。他の説では、“百万人以上の人が死んだ”言っています。最も高い数字をあげている説では、一日に87の葬式があったという事です!ですから、40年以上の間、来る日も来る日も、モーセとイスラエルの民は、一日に何度も死人を埋葬するという責務に直面していたこととなります。モーセは、死と深い悲しみに包まれていました。ですから、彼は、知恵の心をもって、このような大切な人生の問題について書くことができたのです。神様が彼の人生の先生だったのです!

モーセは、この詩篇を“神のご慈愛が民の上にありますように”という心からの嘆願で結んで終わりにしています。生と死などといった重すぎる問題において、主のご慈愛が私たちの上にありますように、とは一体どういう意味

なのでしょう? 神と人類の間の恩恵は、自動的に与えられたものではありません。そのためにはイエス様の犠牲がありました。イエス様に対する個人的な信仰を持つことにより、私たちは、神のご慈愛を楽しむことができます。十字架上で神は、人間の罪に対する神の御怒りの強さ、そして神の愛と深い憐れみの力とを示されました。神のご慈愛は、神からの恵みによってのみ与えられるものであり、そのとき聖霊が人々の心に働き、イエスへの悔



い改めと信仰へと導くのです。知恵の心は、私たちを、生と死という問題において、イエスと彼の行った出来事へと向かわせます。イエスと彼の行ったことに目を向けるということは、生と死の両方で、人生で一番大切なことへと私たちを導くこととなります。

あなた方の多くは、キャンパス・クルセード、あるいは日本ではCCCの名称で知られているキリストのためのグループのことを聞いたことがあるでしょう。しかし、おそらく、このグループの創設者のことはあまり御存知ではないでしょう。

彼の名前は、ビル・ブライトといいました。彼は、世界中で福音を広めるための組織をスタートした先見の明を持ったリーダーでした。彼には、また治すことのできない呼吸器系の疾患がありました。

ビル・ブライトは、死の直前、クリスチャンのリーダーと若者を集めて話しをしました。彼は、その時すでに、医者が予測したよりも長く生きていたのですが、衰弱した体で、酸素マスクを着け、車椅子でミーティングルームにやってきました。その場所にいた人々と会うのは、おそらく最後になるであろうということを、彼は分かっていました。多くの人が認める、この世代の有数な、優れた先見の明を持ったリーダーが、最後の説教として選んだメッセージは、将来の展望や戦略についてではありませんでした。彼の説教の焦点は、これまで彼がしてきた素晴らしいことのすべてではなく、イエスが彼のためにしてくださったすべてのことだったのです！

死を直前にした彼のメッセージの中で“神をあなたに益を与えて下さる方としてではなく、神ご自身があなたの益だと知ってほしい”と言いました。注意深く選択された彼の言葉は、神を愛し、人を愛することの重要性を示してしていました。彼のスピーチを聞いていた人々に、あなたの神への愛とあなたの人への愛を人生で一番大切にしないと勧めました。彼は、彼の人生で沢

山の事をやり遂げました。しかし彼の最後の言葉は、I コリント人への手紙13章1節から3節までの言葉と非常によく似ています。“たとい、私が人の異言や、御使いの異言で話しても、愛がないなら、やかましいどらや、うるさいシンバルと同じです。また、たとい私が、預言の賜物を持っており、またあらゆる奥義とあらゆる知識とに通じ、また、山を動かすほどの完全な信仰を持っていても、愛がないなら、何の値うちもありません。また、たとい私が持っている物の全部を貧しい人たちに分け与え、また私のからだを焼かれるために渡しても、愛がなければ、何の役にも立ちません。”

人生の最後に一番問題となるのは、愛です。ビルはイエス様にある神の愛を受け取ったことを本当に分かっていました。ビルは、神のご慈愛が、彼が何かをしたことによって彼に与えられたのではないということも分かっておりました。彼は、神の恵みを大いに喜んでいたので。彼に残された時間と余力を使って、彼は、人々に神の存在そのものを益とすることを嘆願したのでした。

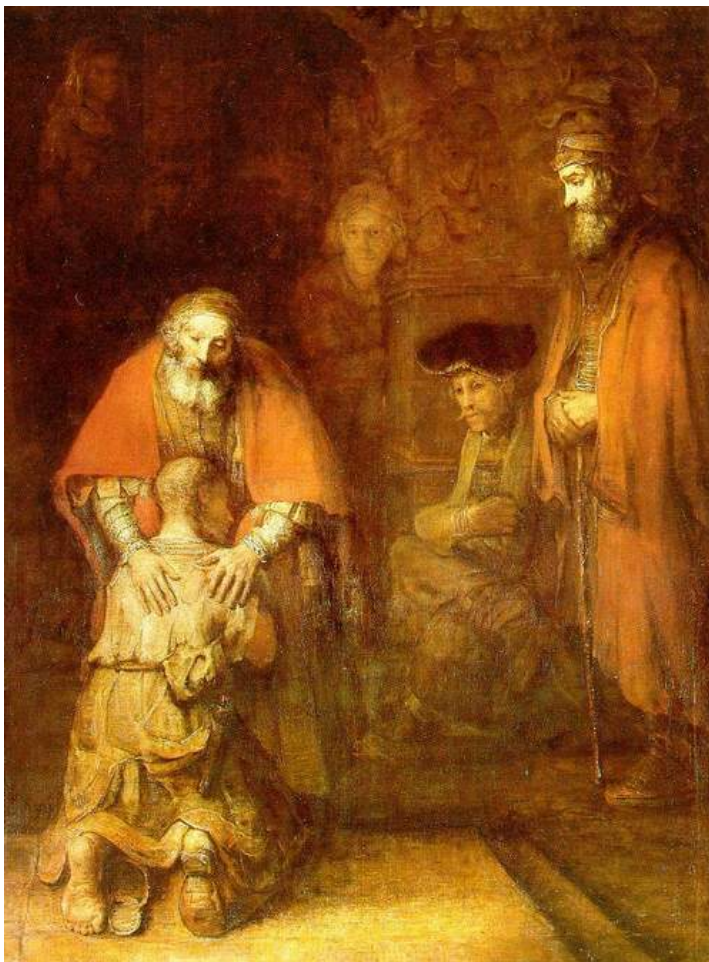
ジョンパイパーは彼の著書「あなたの人生を無駄にしないでください」の中で、次のように書いています。「**神様は私たちを、たった一つの強い熱意を持って生きるようにと、創造して下さったのです。その熱意は、何をするにも、神の最高に優れていること**

を、生活のあらゆる場面で、喜び表すというものです。このことが無いなら、人生を無駄にしているのです。神は私たちが、人生で何をするにも、そのために祈り、考え、夢を持ち、計画し、行動するようにと望まれています。」それは私たちがすばらしい者となるのではなく、私たちがすばらしい神をほめたたえるためなのです。神様が私たちに下さるキリストにある恵みが、そのことを可能にするのです。

(この説教は絵画のことで始めましたから、最後も、ある絵についての話で終わろうと思います。)その絵は、ローマのセントピーターズにある修道院美術館に掛かっています。絵の題名は、放蕩息子の帰省とよばれています。それは、画家レンブラントの最後の未完成作品で、彼の没年1669年、彼のアパートで発見されました。この絵の主題は、ルカ15章のイエスのたとえ話から取られています。レンブラントは、この絵に、放蕩息子に対する、父の深く、変わることのない愛を表しました。レンブラントは、彼の想像の中で、こんなにも美しく、神の愛を描写しましたが、神様は現実だったので。

14節で、詩篇の作者は、神の“恵みー親切な愛”と言っています。それは、ヘブル語で、特別の意味があります。それは“HESED” といいます。意味は、神が私たちに絶え間なく与える愛で、それは私たちが神に従順でない時でさえも、与えられる愛

であるという意味です。それ故、詩篇の作者は“毎朝”と言っているのです。神がご慈愛を注がれると決めた人々に、神が愛を注ぐのを止めることは、決してないのです。私たちの存在理由は、愛の中で、永遠に、神と一つになることなのです。イエス・キリストは、私たちがこの愛を知り、経験するために、私たちに必要なすべてのことを、既にして下さったのです。それが、人生で一番大切なことなのです。



人生は短い。考えてみて下さい。毎朝、神様のご慈愛の下に一日が始まるということを知っていたとしたら、皆さんの一日はどんなふうになるでしょうか？あなたがどのように一日を過ごすのかに、違いをもたらすとは思いませんか？

死は避けられないことです。考えてみて下さい。あなたの将来の運命は、ゆるがないもので、そしてそれは、変わらないということが分かったとしたら、あなたの人生はどんなふうになるのでしょうか？そして、それは良いものです。本当に良いものです。だとしたら、死へのアプローチが違ってくるのではないのでしょうか？

神様、教えてください。

どうか神様。あなたが、あなただけが、私たちの日の数を教えて

下さい。

私たちに、この地上における人生は、本当に短いことを悟らせてください。

この世に私たちが来た時を示す日があります。

私たちはそれを良く知っています。

しかし、他の日もあるのです。この地で私たちが自分の時間を全うする日です

それは、神だけがご存知なのです。そして、神は、神のみことばで、私たちに

今日こう語っています。人生は短いと。

私たちに、自分の齢を数えることを教えてください。

私たちの内に働いて下さい。そして、私たちが知恵の心を持つことができますように。

あなたの、愛に満ち溢れた権威の下に、自分自身を委ねる事のできる心。

人生で一番大切なことを経験することができる心。

あなたの愛とご慈愛のなかで、喜びに満ち溢れた心。

祈りましょう。

親愛なる天におられる父よ、

私たちの人生はあなたからの贈り物です。

どうか、私たちがその贈り物を上手に使うことができますように。

私たちの中には、生きること、死ぬこと、裁きの日、地獄、天国について、異なった意見があります。

これらの異なった意見は、私たちにとって意義ある人生とは何かを定義します。

これらの意見は、わたしたちの今の人生に影響します。

しかし、単なる人の意見は、すぐに崩れ、現実の厳しい光のなかに、消え去ります。

ありがとうございます。あなたのみことばは真実です。

私たちの人生の著者として、あなたは私たちに単なる意見以上のものをくださいました。

あなたは、生きること、死ぬこと、神の裁き、地獄と天国をあるがままに、表されました。

私たちが、あなたのみことばによって、これらの事柄をじっくりと考えることができるようにしてください。

人生は短い。

どうか、私たちが、知恵の心を得て、自分の齢を数えることができるように、教えてください。

どうか、あなたの愛とご慈愛の内に自分たちの人生を全うすることができますように。

これらすべてのことを、イエス様のお名前によって、お祈りします。

アーメン